

すが う だ さ た おき

# 清し有田佐田沖環境保全会の活動について

テーマ

多様な団体の参画による活動継続の工夫

たま き  
三重県 玉城町

# 目次

---

1. 地域の紹介	.....	1
2. 活動組織の概要		
設立の経緯と組織概要	.....	2
組織構成	.....	3
3. 組織の運営方針（運営の核心）	.....	4~5
4. 活動の成果		
農地維持活動	.....	6
軽微な補修・長寿命化	.....	7~8
学校・福祉施設と連携した取組み	.....	
地域住民等との交流活動		9~10
5. 今後の課題（活動の展開方向）	.....	11
	.....	12

# 1.地域の紹介



50km

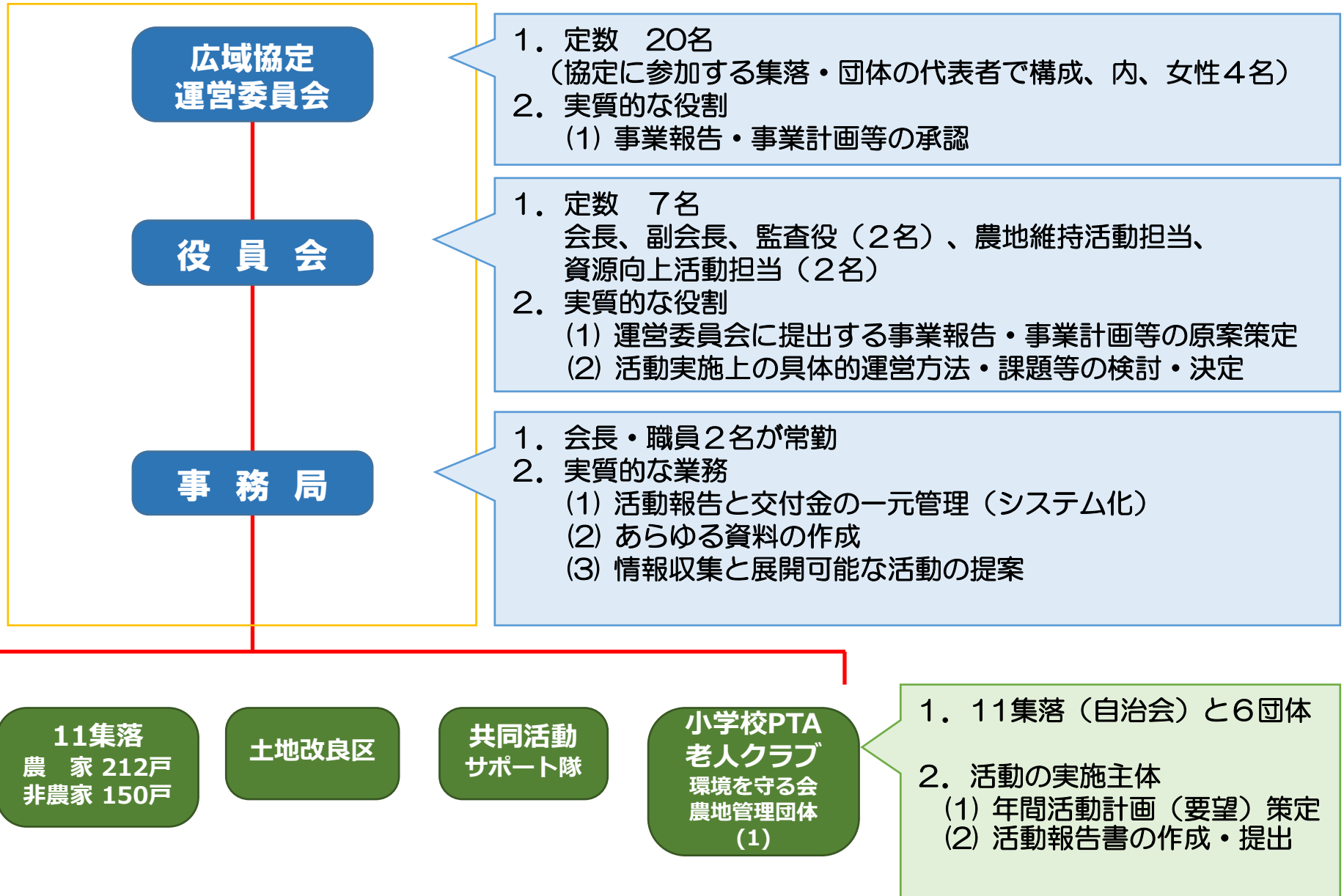


- 総面積：40.91km<sup>2</sup>
- 人口：15,674名（5,702世帯） 高齢化率：25.7%
- 部門別農家数〈販売農家総数 470戸〉
  - ①稲作 389
  - ②野菜類 34
  - ③果樹類 30
  - ④花き類 7
  - ⑤肉用牛・養豚・養鶏 8

## 2. 活動組織の概要－設立の経緯と組織概要－

項目	説明内容	
設 立	平成24年度5月（当初から広域活動組織として）	
【設立の経緯】	① 平成19年度に宮川左岸第一土地改良区の玉城町内受益集落13集落のうち、2集落がそれぞれ単独で組織を設立	
	② 平成23年末より玉城町と土地改良区で協議のうえ、改良区の組織体制を活用し、その受益集落での広域組織設立の方針を固め、近隣市町村の先行組織への聞き取り調査の実施、先行2集落との調整、広域協定原案等の検討を進めたのち、翌年3～4月にかけて各集落の説明会を実施した。	
	③ 先行する2集落の参加は見送られたものの、他の11集落においては、組織の管理・運営面での理解が進み、かつ施設補修進捗の期待が大きいことから広域での組織化に最終的に同意した。	
認定農用地	全 体：332ha（田：302ha、畑：30ha）	
農業用施設	水 路：39.7km （開水路：11.6km、ループライン：28.1km）	
	農 道：12.9km	
	ため池：6箇所	
対象活動	農地維持活動	
	資源向上活動〈共同、長寿命化(H29～)〉	

## 2. 活動組織の概要－組織構成－





# 3. 組織の運営方針(運営の核心)

## 設立当初の課題

- ① 設立当初から要望が強かった施設補修については、各集落が納得できる透明性のある計画策定プロセスが必要
- ② 県ガイドライン（外注費は交付金額の50%以下）のクリアと外注依存体質の改善
- ③ 植栽や農業体験などは人材確保が容易ではなく、集落という垣根を飛び越える一押しが必要

## 対策 その1 活動の計画性と集落間の平等性の確保（とりわけ施設補修に関して）

### 各集落による点検・機能診断

- ・毎年2～3月
- ・翌年度の活動要望作成と事務局への提出

次年度活動  
要望の唯一  
の機会



### 役員による再度の点検・機能診断

- ・要望の妥当性・優先順位の検討
- ・活動計画原案作成



### 運営委員会の活動計画決定

- ・毎年5月末

集落の要望  
を出す場  
はないとい  
う位置づけ



計画の原則堅持

役員会・事務局へ  
の信頼感の醸成

## 対策 その2

## 有田佐田沖共同活動サポート隊の設立による多様な人材の確保

### 設立の目的

- ① 土木等の専門技能・資格を有する人材の確保による直営施工の拡大
- ② 集落の垣根を越えて、賛同する活動に参加できる人材の確保



H26.10設立



● 水路の生きもの調査

### 設立後の効果

- ① 直営施工や農村環境保全活動数の増加
- ② 女性の活動参加数の増大 (人材の掘起し)
- ③ 様々な情報が集まる  
(活動に新しいストーリー展開の可能性)
- ④ 専門家との出会い

運営パラダイムの  
転換

### 有田佐田沖共同活動サポート隊の設置趣意書

平成 24 年に発足した清し有田佐田沖環境保全会では、農地、水路、農道等の維持管理や、農村環境の保全活動の中心に各集落単位の共同活動を基本として事業を実施してきました。平成 26 年度の活動計画をみると、水路等の施設の補修・更新などを目的とする活動が増加、かつ大規模化していることから、これまで以上に土木等の専門的な知識や技能、作業安全性の確保が求められています。一方で交付金全体に占める外注費の割合は 50%未満に制限されており、これまでのような補修・修繕活動は専門業者に委託するという外注方式だけでは対応が難しくなっていくことが予想されます。

さらに、イベント開催等の増加に伴い、集落間の連携や集落の垣根を越えた人材の確保も急務の課題となっています。

このような課題の解消を図るため、当保全会内に、建設業の経験者など必要な専門技術・資格を有している方や当保全会の活動に賛同して頂ける方を募り、「有田佐田沖共同活動サポート隊」として編成し、集落等の共同活動を支援する体制を構築することによって、当保全会の直営活動の充実と適正な運用を図ることとします。

- (1) サポート隊が支援する活動には、環境保全会の担当役員を配置します。また施設等の補修・修繕活動を支援する場合は、土木関係の技能・資格を有する隊員を中心に作業班編成を行います。
- (2) イベントや軽微な労務作業に従事して頂くことを想定してサポート隊の中に「女性部」を設置します。
- (3) サポート隊の運営や活動については「有田佐田沖共同活動サポート隊規約」をご覧ください。

〈活動計画から実践までの流れ〉





## 4. 活動の成果 ー農地維持活動ー



年 度	活動数
H24	29
H25	25
H26	26
H27	33
H28	39
H29	33



基礎的保全活動実践活動の推移

実践活動数は増加傾向にあるが、「人・農地プラン」策定は3集落にとどまっており、施設の保全管理に関する担い手との協力・役割分担の話し合いは不十分



# 4. 活動の成果 — 軽微な補修・長寿命化 —

## 直営施工件数の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
① 施 工 数	6	8	19	14	37	24
② 内、直営施工	1	0	17	14	34	21
直営施工比率 (②/①) %	17	0	89	100	92	88

## 直営施工増加の効果

- ① 事業費の削減
- ② 土木工事に係る様々な情報や施工に関するノウハウの蓄積により、「自分たちでもできる」という機運が醸成され、サポート隊の支援を受けない直営施工件数も増加

## 活動事例

### ● きめ細やかな雑草対策



サポート隊による重機を使った法面整形



地域住民による防草シート張り  
とヒメイワダレソウの植栽



開花時にはたくさんのミツバチが飛来



毎年、春と夏の終わりに除草作業を行うことにより植栽を維持

# 4. 活動の成果 — 軽微な補修・長寿命化 —

## ● 農用地の除れき



農用地としての劣化を防ぐため、サポート隊の支援を受けて礫とササ等の根の除去を行う



盛土による畑としての再生

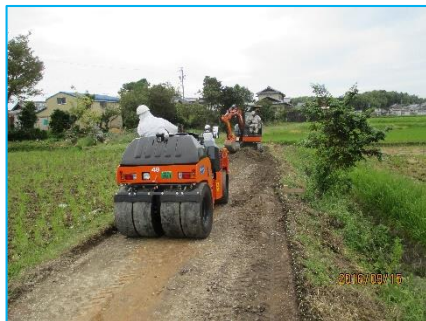


有田保育所と福祉施設によるトウモロコシ栽培体験地として活用

## ● 未舗装農道の舗装



測量及び路床・路盤工事まではサポート隊で行う



舗装工事は外注



完成後は多くの住民が利用

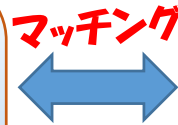


# 4. 活動の成果 ー学校・福祉施設と連携した取組みー

## 連携のきっかけ

サポート隊の中での情報提供から

**学 校**：生活科・総合的な学習の時間のテーマとして体験活動や地域との連携を重視  
**福祉団体**：高齢者・障害者が地域の一員として暮らし、共に生きがいを創るという方向性



## 多面的機能組織

農業体験や様々な人との交流を通じて

- ① 地域農業やその関連施設が果たす役割（自然環境保全など）を伝えたい。
- ② 地域とそこに住む人への関心を高め、地域のもつ素晴らしいところを発見してほしい。

## 活動事例

### ● 有田保育所と福祉関係団体が行うトウモロコシ栽培体験



障害者施設でのポット苗作り



園児たちと福祉関係者がペアを組んで実施したトウモロコシ苗の植付け



ペアになる  
ことで交流  
が深まる



有田保育所の収穫体験



# 4. 活動の成果 ー学校・福祉施設と連携した取組みー

## ● 有田小学校5年生のもち米栽培体験



田植え（手植え）体験



稲刈り体験（手刈り）  
精米したもち米は  
「**うだっ子**」と命名



出前講座



生産から食までの過程  
を体験してもらう



餅つき体験と「うだっ子餅」づくり。全校生徒に  
配り試食してもらう

## ● 田丸小学校1年生のマリーゴールド植栽体験



ポット苗づくり



マリーゴールド  
里親プロジェクト



組織・活動の目的やたく  
さんの人たちの関わりを  
子どもたちの言葉で説明



子どもたちと福祉団体関係者による苗の植付け



発芽から育苗期の管理を  
地域の皆さんに委託

**64の個人・団体が里親に**

管理したポット数：2,952





# 4. 活動の成果 —地域住民等との交流活動—

## ● 玉城ええやんまつりへの出店

有田小学校5年生が収穫したもち米「うだっ子」を活用して、来場客へのうだっ子餅のふるまいと餅つき体験を実施



## ● そば打ち道場と掛け蕎麦のふるまい会

景観形成用に植栽したソバの実を収穫し、プロを招いてのそば打ち道場と打ったそばを掛け蕎麦として地域住民に提供するふるまい会の開催



## ● 「お花畑で春のランチプレート」の開催

田丸小学校2年生が播種作業を行った秋まき・春咲きの花の開花時に地元産の食材をメインにしたランチを食べながら花を楽しんでもらう



● 田丸小2年生の播種体験



平成29年度は福祉団体と連携し、そば打ち体験を共催

## ● 会場での広報活動

可能な限り活動紹介コーナーを設置



## 里地里山への着目

### 里地里山は保全管理に係る課題の集積エリア

- ① イノシシ等による獣害被害の拡大  
(獣にとっての餌場・ひそみ場の増加)
- ② 利便性や作業が過酷等の理由から耕作放棄地が発生する可能性が高い
- ③ 景観の荒廃の進行(竹林の増殖、雑草繁茂等)

#### ● ～獣害被害確認～里山ウォーキング



#### ● 三重大学人文学部による里山調査



## 課題集積の要因

- ・ 利用価値の低下により人の手が入らない
- ・ 地域のみでは維持管理が困難

価値を共有する地域内外の多様な個人・団体等の参加・協力(協働)が必要

## 多様な主体が協働可能な仕組みの構築

### 【取組み方向】

- ① 地域の人々による里地里山の調査
  - ・ 現状把握と価値の見直し・再発見作業
- ② 新しい活動の仕組みづくり
  - ・ 地域の実情・要望に応じた事業構築と参入側の二ーズの把握
  - ・ 受入れ体制の整備
- ③ 新しい活動の展開と拡大へ